

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ごみ中継施設更新工事	階数	地上2F
建設地	京都府八幡市八幡沢1番地	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,086 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年2月1日
敷地面積	30,542 m ²	作成者	足立 明
建築面積	1,516 m ²	確認日	2022年2月10日
延床面積	2,213 m ²	確認者	足立 明



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.3 ★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 81% (37 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 81% (37 kg-CO₂/年・m²)

④上記+: 81% (37 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 1.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

3 設計上の配慮事項

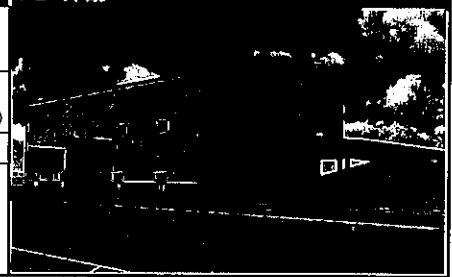
総合	その他	
ごみの収集から処理に至る工程を円滑に行うための中継施設です。	0	
Q1 室内環境 LED照明の採用	Q2 サービス性能 各階に休憩室(運転手控室)を設置	Q3 室外環境(敷地内) 0
LR1 エネルギー 太陽光発電設備の導入	LR2 資源・マテリアル 節水型設備の採用 雨水再利用システムの導入 京都府内産木材の使用	LR3 敷地外環境 0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ごみ中継施設更新工事	階数	地上2F
建設地	京都府八幡市八幡沢1番地	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,086時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年2月1日
敷地面積	30,542 m ²	作成者	足立 明
建築面積	1,516 m ²	確認日	2022年2月10日
延床面積	2,213 m ²	確認者	足立 明



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 81%

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

排出量: 46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	1.7
4(教育)	1.8
5(エンダー)	1.5
6(水・衛生)	1.9
7(エネルギー)	1.9
8(経済・雇用)	1.7
9(イノベーション)	1.6
11(都市)	1.4
12(生産・消費)	2.0
13(気候変動)	1.5
15(陸上資源)	1.3
17(実施手段)	2.2

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 1.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他
ごみの収集から処理に至る工程を円滑に行うための中継施設です。	0
Q1 室内環境 LED照明の採用	Q2 サービス性能 各階に休憩室(運転手控室)を設置
LR1 エネルギー 太陽光発電設備の導入	LR2 資源・マテリアル 節水型設備の採用 雨水再利用システムの導入 京都府内産木材の使用
	LR3 敷地外環境 0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される